

安全データシート

改訂日:2022年9月9日

1. 製品及び会社情報

化学品の名称
推奨用途
会社名
住所
電話番号

炭酸カリウム
試験研究用
米山薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町2丁目3番11号
(06)6231-3555(大阪・本社)
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
DA0066

整理番号

2. 危険有害性の要約

GHS分類
健康に対する有害性

急性毒性(経口): 区分4
皮膚腐食性及び皮膚刺激性: 区分2
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性: 区分2A

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

警告
飲み込むと有害
皮膚刺激
強い眼刺激
【安全対策】
取扱後は手をよく洗うこと。
取扱後は眼をよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
適切な保護手袋を着用すること。
適切な保護眼鏡、保護面を着用すること。
【応急措置】
飲み込んだ場合: 気分が悪い時は医師に連絡すること。
口をすすぐこと。
皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹼で優しく洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断、手当てを受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合: 医師の診断、手当てを受けること。
【保管】
容器を密閉して涼しく換気の良い場所で施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物、容器を国又は都道府県の規則に従って廃棄すること。

注意書き

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別
化学名又は一般名
別名
化学式
化学物質を特定できる一般的な番号
含有量
官報公示整理番号(化審法/安衛法)
その他

化学物質
炭酸カリウム
炭酸カリ, 炭酸カリウム(無水)
 K_2CO_3
CAS RN: 584-08-7
99%以上
(1)-153 / 公表
HSコード: 2836.40

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。

皮膚に付着した場合

多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師の診断を受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。
直ちに医師の診断を受けること。

予測できる急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状

吸入: 咽頭痛、咳。
皮膚: 発赤、痛み。
眼: 発赤、痛み。
経口摂取: のどや胸部の灼熱感。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

不燃性である。周辺の状況や火災の状況に応じて適切な消火剤を使用する。

使ってはならない消火剤

該当情報なし。

特有の危険有害性	火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火を行う者の保護	安全に対処できるならば着火源を除去すること。 適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。 全ての着火源を取り除く。 作業の際には適切な保護具を着用し風上から作業して、風下の人を退避させる。 環境中に放出してはならない。 粉塵の立たない方法で出来るだけ掃き集め、空容器等に回収する。 水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。 プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。
環境に対する注意事項	
封じ込め及び浄化の方法及び機材	
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策	全体換気装置、局所排気装置を設置する。 洗眼器と安全シャワーを設置する 取扱い後はよく手を洗うこと。 取扱後は眼をよく洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 適切な保護手袋を着用すること。 適切な保護眼鏡、保護面を着用すること。 酸、湿気
安全取扱注意事項	
接触回避	
保管	直射日光を避け、換気のよいなるべく涼しい場所に密閉して保管する。 ポリプロピレン
安全な保管条件	
容器包装材料	
8. 暴露防止及び保護措置	
許容濃度	未設定
管理濃度	未設定
日本産業衛生学会	未設定
ACGIH	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には、適切な洗眼器と安全シャワーを設置すること。 ばく露を防止するため、作業場には適切な全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
設備対策	
保護具	
呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	粉末または顆粒
色	白色
臭い	無臭
融点/凝固点	891℃
沸点又は初留点及び沸点範囲	該当情報なし
燃焼性	不燃性
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	不燃性
引火点	不燃性
自然発火温度	不燃性
分解温度	該当情報なし
pH	11.6 (水溶液)
動粘性率(粘度)	該当情報なし
溶解度	111 g/100g水 (25 °C), アルコールに不溶
n-オクタノール/水分配係数	-6.19
蒸気圧	2.44E-17 mmHg (25 °C)
密度及び/又は相対密度	2.29
相対ガス密度	該当情報なし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	該当情報なし
10. 安定性及び反応性	
反応性、化学的安定性	通常取り扱いに於て安定。潮解性あり。
危険有害反応可能性	水溶液は中程度の強さの塩基である。酸、三フッ化塩素と激しく反応する。金属末と反応する。
避けるべき条件	湿気
混触危険物質	酸、三フッ化塩素、金属末
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素
11. 有害性情報	

急性毒性	経口：ラットのLD ₅₀ 値が1870 mg/kg (HSDB (2001)、IUCILID (2000))、>2000 mg/kg (IUCILID (2000)) の2件あり、それぞれ区分4と区分外 (国連分類基準区分5または区分外) に該当するため、危険性の高いデータを採用し区分4とした。 経皮：データなし。 吸入：データなし。 (粉塵)
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	ウサギのDraize試験で、刺激指数は2.5 (最大値8) であり、刺激性あり (irritating) の結果 (IUCILID (2000)) により区分2とした。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	ウサギのDraize試験で 平均スコア値は角膜混濁2.17、虹彩炎1.33、結膜発赤3.00、結膜浮腫4.00、刺激指数は63.2 (最大値110) であり、刺激性あり (irritating) の結果 (IUCILID (2000)) により区分2Aとした。なお、10%溶液 (pH11.6) をウサギの眼の表面に30秒間適用により、痛みと上皮に僅かな一過性の変化が見られたとの報告 (HSDB (2001)) もある。
呼吸器感受性又は皮膚感受性	呼吸器：データなし。 皮膚：データなし。
生殖細胞変異原性	in vivo試験のデータがなく分類できない。なお、in vitro試験ではエームス試験およびCHL細胞を用いた染色体異常試験で陰性の結果が得られている (以上IUCILID (2000))。
発がん性	データなし。
生殖毒性	妊娠ラットおよびマウスの器官形成期に経口投与した試験で、両動物種共に着床、母獣と仔の生存に対し目立った影響はなく、内臓異常および骨格異常の発生数も対照群との間に差は認められなかった (IUCILID (2000)) が、親動物の交配前からの投与による性機能および生殖能に対する影響に関してはデータがないため「分類できない」とした。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	データなし。本物質はアルカリ性であるため吸入により気道を刺激するおそれがある (HSDB (2001))。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	データなし。
誤えん有害性	データなし。
12. 環境影響情報	
生態毒性	短期: 甲殻類 (ニセネコゼミジンコ) の48時間LC ₅₀ = 630 mg/L (AQUIRE, 2011) (急性) から区分外とした。 長期: 難水溶性ではなく (水溶解度: 500000 mg/L (PHYSPROP Database, (慢性) 2011))、急性毒性区分外であることから、区分外とした。
残留性・分解性	該当情報なし
生体蓄積性	該当情報なし
土壌中の移動性	該当情報なし
オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意	
国連番号	—
品名 (国連輸送名)	—
国連分類	—
副次危険性	—
容器等級	—
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。
国内規制がある場合の規制情報	
陸上輸送	消防法の規定に従う。
海上輸送	船舶安全法の規定に従う。
航空輸送	航空法の規定に従う。
応急措置指針番号	—
15. 適用法令	
化学物質管理促進法 (PRTR法)	指定化学物質に該当しない。
毒物及び劇物取締法	毒物及び劇物に該当しない。
消防法	危険物に該当しない。
労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物〔炭酸カリウム〕〔施行令別表9〕(2026年 (令和8年4月1日)以降) 危険性又は有害性を調査すべき物〔炭酸カリウム〕(2026年 (令和8年4月1日)以降)
16. その他の情報	
参考文献	NITE-CHIRP (製品評価技術基盤機構HP) 16615の化学商品 (化学工業日報社) 職場のあんぜんサイト (厚労省HP) NITE-GHS分類結果 (製品評価技術基盤機構HP) 国際化学物質安全性カード (国立医薬品食品衛生研究所HP)

Merck Index 14th.

The Sigma-Aldrich Library of Chemical Safety Data Edition II

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。